

## 「SPサイネージ」とは？ 本格化する販促ツールとしてのデジタルサイネージ

ひとくちにデジタルサイネージといっても、広告媒体と販促ツールでは使い方が大きく異なる。今回執筆を依頼した(株)オールの高木氏は、前者をADサイネージ、後者をSPサイネージと独自の呼び方で明確に分類している。SPサイネージに必要な要素は何か、効果的なSPサイネージとはどうあるべきかを解説していただいた。(編集部)

文・高木 潔

株式会社オール

デジタルサイネージ事業部 開発部 部長

「デジタルサイネージ」という言葉はかなり一般化してきていますが、あなたは「デジタルサイネージ」と聞いて何を思い浮かべるでしょう？ある人は電車内の「トレインビジョン」であったり、居酒屋さんの前に置いてあった電子看板だったり、きっと様々な連想をします。そして「デジタルサイネージ」というと、なんとなく全部同じようなもの、と思いませんか？

私は「デジタルサイネージ」は利用目的によって大きく二つに分類されると考えています。その二つとは、「AD(広告)型のデジタルサイネージ」と「SP(販促)型のデジタルサイネージ」で、私はそれぞれを「AD(アド)サイネージ」と「SP(エスピー)サイネージ」と呼んでいます。

### 「ADサイネージ」と「SPサイネージ」の違いとは？

この二つの違いは、例えて言えば「公共交通機関」と「マイカー」の違いと似ています。公共交通機関では、誰かが線路を敷設して、走らせている車両にユーザーはお金を払って乗るだけです。行きたいところへピンポイントでは行かず、近くまで行くだけです。

一方、マイカーは自分で車を購入し、運転を覚えて自ら運転しなければどこにも行けません。しかし、行きたいところへほぼピンポイントで行くことが可能です。

「ADサイネージ」は公共交通機関と同じようにインフラと考えるとわかりやすいと思います。デ

ジタルサイネージを設置する場所の持ち主(ロケーションオーナー)と広告主とは、通常何の関係もありません。多くの場合は広告代理店が仲介して両者を結びつけ、さらに別の運営者がシステムを設置して運用します。多くの関係者が構築したインフラ=メディアに第3者が有料で広告を流すのが「ADサイネージ」です。この場合、事業者の目的は広告収入を得ることになります。

広告ですから多くの人の目に止まらなければ話になりません。したがって、設置場所が重要になります。駅とか空港、電車の中といった空間に多数のディスプレイを設置して、少しでも多くの人に見てもらう必要があります。

「SPサイネージ」はマイカーのように、オーナーが自分の目的のために使うものです。店舗が自ら機材やシステムを購入し、自分の店舗の宣伝やキャンペーン告知を流すために使います。目的は広告収入を得ることではなく、お客様に直接アピールして自店の売上げを伸ばすことです。そのためには季節や天候、時間帯や客層、商品など、店舗の状況は刻々と変化するので、時間やコストをあまりかけずに運用する必要があります。(図1)

### 店舗に必要なのは「SPサイネージ」

おそらく、ほとんどの店舗オーナーにとって最大の関心事は「売上げを上げること」です。他人の広告を流してわずかな収益を上げたとしても、店舗の売上げには結びつきませんから、いかにして新規顧客を獲得し、リピーターにしていくかが日常的な課題となります。そのためにすでに様々な販促手段(ポスターやPOP、チラシや折込、クーポン配布、ポスティング、店頭での呼び込み等)を試行錯誤しながら実行しているわけです。「SPサイネージ」の目的とは、これら従来の販促

手段に代わってもっと効率よく、より低コストで効果的な販促を実現することにあります。

では、実際にそれらを実現するためにはどうすればよいのでしょうか？

### 「SPサイネージ」に必要な要素

さて、効果的な「SPサイネージ」を実現するために必要な要素は何でしょう？

**ハードウェア** 一番重要なのはディスプレイですが、TPOによってディスプレイの種類が違ってきます。外の通行人に見せたいなら、なるべく大画面で高輝度のものでないと視認性が良くないですし、入店客に向けてカウンターや棚に置いて見せるなら輝度よりも小型で軽量のものが適しています。デザインも重要でしょう。最近では屋外に置けるような防水、防塵性能を備えたスタンド付きの物もあります。また、設置場所によって様々な取付金具やデータを再生するPC(STB)、ネットワークが必要です。

**ソフトウェア** ここで言うソフトウェアとは、放映するコンテンツをスケジュールリングして配信したり、コンテンツを作成するソフトウェアです。インターネットでサーバにアクセスして利用するASPサービスもあります。

**コンテンツ** 一番の悩みどころがこれです。タイムリーな販促のためにはコンテンツがたくさん必要になりますが、時間とコストを考えるとあまり外注には出せません。外注するなら毎月定額である程度の本数を制作してくれるような制作会社を探す必要がありますが、そうした需要に応えてくれる会社はまだ少ないのが現状です。機動的に運用したいなら、自店でコンテンツ作成や修正ができる環境を準備できると便利です。

また、販促活動を行うわけですから、いっようなコンテンツを流すのかとか、誰がどう運用するのか、システムの管理をどうするか、といった運用ノウハウも重要です。(図2)

### いよいよ普及期に入った「SPサイネージ」

数年前と比較すると、ディスプレイを始めとするハードウェアやソフトウェア、サービスのコストもかなり安くなり、店舗で「SPサイネージ」を利用できる環境が整いつつあります。今後は業種に特化したパッケージや、規模に応じた様々なサービスのバリエーションが充実していくでしょう。環境が整ってきた今年は「SPサイネージ元年」になる可能性が高いと思います。

今後は、さまざまな店舗で「SPサイネージ」を見る機会が増えることでしょう。

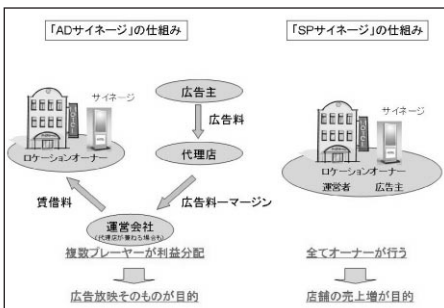


図1

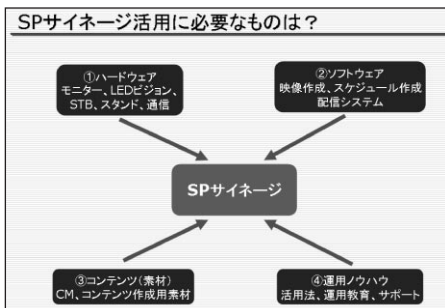


図2

## 「SPサイネージ」を簡単に実現する(株)オールの「iroDori」

### 店頭プロモーションは「SPサイネージ」の時代へ

昨年あたりから、店頭でデジタルサイネージを設置するお店が増えてきました。紙のポスターとは違って、動きのある映像は通行人の目を引き付ける効果がありますので、放映するコンテンツはできる限り動きのあるものにしたいところです。

ここで、映像コンテンツの制作から放映までの手順を説明しましょう。

まず、キャンペーンや商品の入荷などをアピールする内容を考えます。

次に制作会社との打合せを行い、イメージを伝えます。

映像会社が制作したコンテやラフを見て修正します。

制作会社からコンテンツが納品。

スケジュールソフトがASP配信システムにコンテンツを取り込み、サイネージに送信する。といった手順が必要です。

通常、からまでの制作工程で3~7日位はかかります。費用も3万円~ちょっと凝ると10万円位はかかるのではないのでしょうか。実はこの時間と費用が、SPサイネージの普及と活性化の妨げになっています。

### 「SPサイネージ」に必要な条件とは？

コンテンツに費やす時間と費用を節約することは、単にコストを下げるだけでなく、「SPサイネージ」を活用する機会を増やす意味でも、たいへん重要です。

例えばスーパーで、地元の市場で新鮮で安い魚屋野菜を仕入れることができたしましょう。売り場担当者としては、すぐその日に「本日水揚げのアジが3匹100円!!」とか、「朝どりレタスが99円!!」とか告知したいわけです。この告知はすぐにやらなければ意味がありません。

しかし、コンテンツを外注に出しては絶対その日には間に合いません。せっかく立派なサイネージ機器があったとしても、これでは毎日の売りに貢献できませんね。でも、コンテンツを自分で、しかも10分で作成し、すぐに放映できるとしたらどうでしょう？ デジタルサイネージの使い道は、ぐっと広がります。予算も時間も気にせずに、毎日使うことができます。この即時性こそ、「SPサイネージ」には一番必要な要素なのです。

### 動画コンテンツの作成から配信までを簡単に実現

毎日のコンテンツ制作と更新を店舗スタッフ自らが簡単に行えるのがオールの「iroDori」です。「iroDori」には次の4つの機能が備わっています。

#### 動画コンテンツ編集画面

写真や動画などマウスを使って時間軸上に並べ、表示する文章を打ち込むといった簡単な手順でコンテンツを制作する事が可能。

#### スケジュール作成画面

コンテンツのファイルをグループ化し、マウスで1日のタイムラインに貼り付けるだけの簡単操作。

#### 配信機能

スタンドアロン版では1台のSTB、スタンダード版では複数のSTBに異なる映像を配信することが可能。

時間を指定しての自動送信機能や、複数のSTBをグループ化することもできます。

#### 会員専用素材ライブラリ

厳選されたハイビジョンサイズのデジタル素材が使い放題。動画作成をサポートする動きのある背景も縦、横それぞれ豊富に揃っています。

いずれの機能も、徹底的に研究された直感的に操作できるユーザインターフェース

により、わずか30分程度の講習を受けるだけで、誰でも直ぐに運用を始めることができます。

### 「iroDori」の製品ラインナップ

「iroDori」には規模や目的に応じて、4種類のラインナップが用意されています。

・iroDori Designer (動画コンテンツ作成ソフト スケジュール管理・配信システム機能なし)「iroDori」の誰でも簡単に動画コンテンツを制作できるムービー編集機能を独立したソフトにしました。すでに配信システムをお持ちの方で、コンテンツ作成を内製化したい場合に最適です。

・iroDori スタンドアロン (動画作成、スケジュール、配信 STB管理台数: 1台限定版)

コンテンツ作成から配信までを手軽に実現する、個店向けのパッケージです。1つの「iroDori」で1台の専用STBを管理できます。

・iroDori (フル機能 STB管理台数: 数十箇所までの多拠点配信版) スタンドアロン版に加えて、数台~数十台のSTBへの配信機能を備えています。

・iroDori Enterprise (フル機能 STB管理台数: 数百箇所以上の大規模配信版) 配信サーバを用意することにより、「iroDori」の使いやすさはそのままに、大規模配信に対応します。数百店舗以上の一括管理が可能です。カスタマイズにも対応します。

### 【問い合わせ】

株式会社オール

デジタルサイネージ事業部

東京都港区浜松町1-27-12

秀和浜松町交差点ビル7F

Tel.03-6809-1828 <http://www.iroDorinet.jp/>



4種類のラインナップが用意されている「iroDori」



ムービー編集画面